

く町地となし、商家營業の基本をなさしめんと議起りしが、市中の人民も競うて協力なし、日々夥多の歩を出し、或は金銀を献納して入費を助け、貧民共は夫が爲に活計を立て、地平均に従うて、初て市街を建て邸地を定め、望み人へ打渡しけるに、競うて家屋を建築し、各市塵を開き、且嶺上の地に芝居小屋をも建築し、茶店、楊弓場等數ヶ所に設け、明治三年七月初て町名を定め、東御影町・常盤町・梅谷町・粒谷町・末廣町・玉兔町・御廻町・子來町・九軒茶屋など、新建のヶ所に各町名を建て、一時輻輳の地と成りたりしかど、頂上の事なるゆゑ、冬季に向ひ、風雪水害の難ありて、芝居小屋も程なく取壊みて移轉せしめ、従うて茶店・楊弓場等も閉店し、嶺上の家屋共追々取たみ、跡地は茶畠などになすといへども、地味なきが故に茶木も培養なり難く、故に明治六年の秋此の地邊をば埋葬地に定められしより、彌、衰微して家屋減少し、今寂寥たる幽栖の閑地と成りたり。或は云ふ。卯辰山は金澤府城の向山にて、府城の鎮所なる故に、茶白山とも呼べり。然るに此の嶺上を平均し、一時輻輳の町地となしたるは、是廢藩の前兆なりし

ならんと。

○卯辰山

此の山の山名は種々に呼べり。卯辰山、或は茶白山、また向山、雅名を臥龍山などなり。また其ヶ所によりて觀音山・愛宕山・摩利支天山の外春日山雅名帝慶山と呼べるもあり。是らは皆山中の小名といふべし。

○卯辰山名事故

卯辰山は河北郡小坂の庄内卯辰村の村地に屬し、往古より此の村の屬地なりしゆゑに、卯辰山と呼べりといへり。改作所舊記に載せたる享保三年正月里長御所村源兵衛の書付に、

就御尋申上候。

一、卯辰山

但、觀音院山より東之方は後谷と申、山峯を境、此間五六町程。

此南は卯辰村より横山監物殿馬場先之向迄、此間大概八九町程卯辰山と申候。

右就御尋書上申候。以上。

戊正月十一日

御所村 源 兵衛

山崎久兵衛殿

本保才三郎殿

右は舊藩五世參議中將綱紀卿穿鑿し給ふに依りて言上せしもの也。三州奇談に云ふ。卯辰山の號は、金城の東に當る故に、初め東山と云ひけれども、寺院多くして洛陽に紛らはしとて、其の當る方に依りて卯辰といひならはせしといへり。又一説には、石川郡犀川の河上なる辰巳村および卯辰村、卯辰山の名は、いにしへ金澤の城地に本源寺ありたる頃、其の地より辰巳の方に當れりとして辰巳村と稱し、卯辰の方に當れるを以て卯辰村・卯辰山と呼べり。是そのかみ郷民共、本源寺を御山と尊崇せし餘り、方角を以て稱したるを、遂に地名と成りたるもの也。といへり。按ずるに、辰巳の邑名はともあれ、卯辰村・卯辰山の名は附會の説なるべし。卯辰山の名は、汲古北（徵）微錄に載せたる應安二年十二月得江八郎次郎季員申軍忠狀に、今年九月七日御敵攻寄宮腰之間、同九日當所御發向之時御供仕處、凶徒即引退大野宿畢。同十二日夜御敵令沒落大野宿、取陣宇多須山之間

同十五日被責落彼城云々。とある宇多須山は、今云ふ卯辰山なり。古名は宇多須と呼びたりしを、後人呼び誤りて宇多津といふにより、文字を卯辰の二字となしたるものなり。此の事既に三州志（續）餘考・同故墟考にも註せり。今おもふに、延喜式神名帳に尾張國海部郡宇太志神社とあるを、尾張神階帳には宇多須天神とし、今鶉多須村に鎮座すと尾張名所圖會等にいへり。されば宇多志・宇多須・宇多津などいへる地名は、互に唱へ誤れりといふべし。さて宇多須を宇多津と呼びなしたるも、慶長以前よりの事なりけん。石浦神社に傳來せる慶長十一年八月石浦七ヶ村氏子訴狀に、はせの御觀音近年卯辰山へ引取申、又此近年かのとのうしの年、河北郡之内うたつ山へ御觀音御引越。など、載せたり。又此の山を茶白山或は向山と呼べるものは、金澤府城の向うなる山なれば也。城郭の向うなる山を茶白山或は茶磨山といへる事は、兵家より出でたる故實にて、攝津大坂城の向うなる山をも茶白山と呼び、慶長・元和大坂城攻の時、徳川家康公の本陣なるよし難波合戦記等に載せたり。また臥龍山の雅名は、天正五年に上杉謙信の加賀國